

組織的調査研究活動推進事業

赤羽 光秋・田村 眞通・天間 勝三

調 査 目 的

下北郡佐井村を活動の対象地域とし、研究、行政の両部門からなる活動チームによって、当刻地域における漁業振興上の技術需要に対応する指導方針を確定すると同時に、重要試験、研究課題を摘出し、その解決促進をはかる。

調 査 内 容

1. 調査期間 昭和58年4月～59年3月

2. 調査場所 下北郡佐井村

3. 担 当 者

研究部門

水産試験場 赤羽光秋・田村眞通・天野勝三

普及部門

大畑地方水産業改良普及所

行政部門

漁 政 課

水 産 課

漁業振興課

4. 協力機関 佐井村

佐井村漁業協同組合

5. 調査方法

県統計および農林統計を用いて、佐井地区漁業の概要を把握するとともに、58・59年度の2ケ年をかけて、漁民意識調査と漁業生産（経営）調査を実施する。（58年度は漁民意識調査を主として実施。）

調 査 結 果

1. 漁業生産の概要

昭和57年の佐井地区における漁業総生産は、1,618トン、8億1千万円で、このうちコンブを主とした採草が824トン（50.9%）1億7千万円（21.4%）、小型定置、一本釣、刺網等の漁船漁業が621トン（38.4%）4億8千万円（59.3%）となっており、金額ではやはり、漁船漁業の生産が主体を占めている。漁業漁船のうちでも、小型定置が514トン（31.8%）、約3億円（37.4%）をあげ、最も主要な漁業となっていることが判かる。

2. 経営規模

規模別経営体の状況を見ると、総経営体数は405経営体となり、このうち1トン未満船が、223隻で、50%を占めている。これからのトン数階級層別、年間の操業状況を見ると、次の2つのことがうかがえる。

- 小型船は、採貝、採草、一本釣、刺網等いろいろな漁法による複合経営を行っている。
- 5～10トン階層では、漁業種類が少なく、底建網を主とした経営を行っている。

3. アンケート調査結果

① 回答者数

約400経営体すべてにアンケート票を配付した。回答者数は、299人で、約70%の回答率となっている。部落別に見ると、これは部落の人数にもよるが矢越地区が19.1%で最も多く、次いで、原田16.1%となっている。

② 回答者の年齢構成

年齢について回答のあった245件について集計してみると、表4のようになり、50～60才の回答者が35.5%を占め最も多く、次いで、41～50才の回答者が27.3%を占めている。

③ 漁業についての意識（問1）

漁業は代々の職業であり他に職業がないから漁業をやっていると答えた人が多い。一方、「漁業ではやっと食べている」また、「漁業では食べて行けない」と答えた人がほとんどを占めている。

④ 漁業継承についての意識（問2）

子供にはやらせたくない、今の所まだ決めていないという人が最も多く、また、子供に従事させたいと答えた人の中でも、すでに子供が漁業に従事しているという人が多く、これらの意見を踏まえると、子供には継がせたくないという意識が強いように考えられる。

⑤ 漁業の存続性についての意識（問3）

やり方、他業種との兼業等により将来も続けていこうという意識が強いことが感じられた。

⑥ 今後の漁業についての希望（問4）

経営規模を拡大したいという希望を持つ人が多く、次いで、今のままの状態でも漁業を続けたいという人が多い。経営規模の拡大を望む具体的内容としては、沖合漁業及び観光漁業等に従事する漁船を増やすことにより、漁業経営の拡大及び安定化を望んでいる。

⑦ 習得したい知識と技能についての意識（問5）

回答者173人のうち約62%が習得したい知識、技能があると答えたが、その内訳は、養殖技術（25%）、新しい漁具、漁法（16%）、加工技術（14%）の順となっている。

⑧ 今後の漁業振興策についての意識（問6）

魚礁増殖場造成などの沿岸漁場の整備をあげた人が64%を占め最も多く、次いで、流通機構の整備と価格の安定化（31%）、漁場汚染の防止（29%）、種苗放流などの栽培漁業の推進（28%）、漁業の調整と取り締り（28%）、漁港の整備（26%）の順となっていた。

ま と め

当地区漁業生産をみると、水揚量ではコンブが多いが、金額では漁船漁業の比重が高く、やはり、この地区で主体となるのは漁船漁業において他にはないものと考えられ、漁船漁業を対象とした振興策を考える必要がある。

当地区漁民の年齢構成が高齢者に片寄っているが、これは漁業収入の不安定性、漁業労働の不規則性等から漁業に見切りをつけて働き盛りの若者が他地区に流出しているためと考えられる。加えてアンケート調査から漁業を食べていけるか、いけないかギリギリの線で営んでいるとの意識が強いことがうかがえる。

このようなことから漁業の生産を増やし、安定させることを目標に魚礁、増殖場造成、栽培漁業等によって対象資源を増やすとともに、資源管理型漁業の展開が望まれよう。

さらにこの施策に付随する試験、研究も重要と考えられる。

表1 漁業種類別水揚量および金額

(S57年 佐井村)

漁業種類	水揚量		水揚金額	
	数量	割合	金額	割合
刺網	63トン	3.9%	9,497万円	11.7%
一本釣	22	1.4	5,517	6.8
いか釣	7	0.4	453	0.6
延縄	14	0.9	3,242	4.0
小型定置	515	31.8	30,410	37.4
採貝	10	0.6	3,540	4.3
採草	824	50.9	17,435	21.4
その他の	163	10.1	11,302	13.8
合計	1,618	100.0	81,396	100.0

(県統計)

(アンケート調査結果)

問1 職業について、どう考えますか。

- | | | |
|-------------------|------|-----|
| 1. 職業として | 回答者数 | 279 |
| ア 代々の職業である。 | | 56% |
| イ 漁業はやり甲斐がある。 | | 14% |
| ウ 他の職業がないからやっている。 | | 42% |
| エ その他 | | 5% |
| 2. 将来性について | 回答者数 | 288 |
| ア 漁業は希望がもてる。 | | 9% |
| イ やって食べるだけである。 | | 40% |
| ウ 漁業では食べていけない。 | | 57% |
| エ その他 | | 1% |

問2 あなたは、子供にも漁業をやらせますか。 回答者数 277

- | | |
|----------------------|-----|
| 1. 子供にも従事させたい | 40% |
| ア 代々漁師なので継ぐのは当然である。 | 8% |
| イ すでに漁業に従事している。 | 21% |
| ウ 子供も漁業が好きである。 | 6% |
| エ 技術的にも進歩したので希望がもてる。 | 3% |

	オ 危険もあるがもっと機械化すればよい。	3%
	カ 経営を大きくしたい。	1%
	キ 人手不足で他人が雇えない。	2%
	ク 子供と一緒に仕事がしたい。	8%
	ケ 家を継いで老後の面倒をみてもらう。	8%
	コ その他	0%
2.	子供にはやらせたくない	37%
	ア 漁は危険だし仕事が厳しい。	1%
	イ 将来性がない。	18%
	ウ 公害埋立等で見透しが暗い。	3%
	エ 子供の健康が心配である。	0%
	オ 子供次第だがすすめたくない。	10%
	カ 本人の希望でやらせたくない。	6%
	キ 進学させてサラリーマンにする。	5%
	ク 女子である。	3%
	ケ その他	0%
3.	今のところ決めていない	23%
	ア 子供でない。	8%
	イ 女子である。	4%
	ウ 本人の希望で決める。	10%
	エ その他	1%
問3	あなたは、今後も漁業を続けますか。	回答者数 281
1.	はい	84%
	ア 漁業は代々の職業である。	14%
	イ 漁業に自信をもっている。	9%
	ウ やり方によっては将来性がある。	34%
	エ 漁業以外にも兼業すれば食べていける。	20%
	オ 今更他の職業につくことはできない。	11%
	カ その他	0%
2.	いいえ	16%
	ア 漁業には将来性がない。	6%
	イ 漁業では食べていけない。	3%
	ウ 他によい職業を見付けて変わりたい。	3%
	エ 子供のために早く変わりたい。	0%
	オ その他	0%
問4	あなたは、今後も漁業を続けますか。	回答者数 193
1.	今のまま続けたい。	32%
2.	経営規模を拡大したい。	55%
	ア 漁船の大型化したい。	7%
	イ 複船経営	1%
	ウ 沖合漁業進出	6%
	エ 他漁業兼業	21%
	オ 養殖兼業	27%
	カ 観光漁業兼業	4%
	キ 加工兼業	15%
	ク その他	1%

3. 経営規模を縮小したい。	7%	
ア 漁船の小型化		2%
イ 漁船隻数の減少		1%
ウ 漁業種類の整理		4%
エ 養殖業の整理		1%
オ 観光漁業の整理		0%
カ 観光漁業の整理		1%
キ その他		0%
4. 他の漁業に転換したい。	6%	
ア 釣漁業		2%
イ 網漁業		3%
ウ 縄漁業		0%
エ 沖合漁業		1%
オ 養殖業		2%
カ 小型定置網		1%
キ その他		0%

問5 これから習得したい知識や技能がありますか。 回答者数 173

1. いいえ	38%	
2. はい	62%	
ア 新しい漁具・漁法		16%
イ 養殖技術		25%
ウ 加工技術		14%
エ 流通技術		3%
オ 船舶職員資格		7%
カ その他技術資格		9%
キ その他の技能資格		1%
ク その他		1%

問6 今後漁業を振興してゆくためには、何が重要だと考えますか。 回答者数 262

ア 魚礁増殖場造成などの沿岸漁場の整備	64%
イ 漁場汚染の防止対策	29%
ウ 種苗放流などの採捕漁業の推進	28%
エ 漁村の生活環境の整備	23%
オ 沿岸漁業の、沖合漁業の調整と取り締り	2%

カ	観光・遊漁者対策	8%
キ	流通機構の整備と価格の安定化	31%
ク	製水冷蔵施設・加工場・漁具倉庫などの機能施設の整備	10%
ケ	水産金融などの経営安定対策	9%
コ	石油・重油類の安定確保	13%
サ	年金など老後の対策	19%
シ	後継者対策	11%
ス	漁港の整理	26%
セ	その他	2%

注) 各項目の割合はこの問の回答者総数に対する割合で1つの問で2項目以上に○印をつけたものもあり、各項目の割合の合計は必ずしも100%とはならない。

表2 経営体数

経営体数	405
無動力	2
1 T 未満	223
1 ～ 3 T	58
3 ～ 5	40
5 ～ 10	9
小型定置	73

(56年農林統計)

表3 部落別回答者

部落名	回答者数	割合
1. 牛 滝	34	11.4
2. 福 浦	35	11.7
3. 長 後	21	7.0
4. 磯 谷	39	13.0
5. 矢 越	57	19.1
6. 大 佐 井	35	11.7
7. 古 佐 井	30	10.0
8. 原 田	48	16.1
合 計	299	100

表4 回答者の年齢構成

年 齢	牛 滝	福 浦	長 後	磯 谷	矢 越	大佐井	古佐井	原 田	合 計
11 - 20	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
21 - 30	5 14.7	2 6.5	0 0.0	0 16.1	1 2.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	13 5.3
31 - 40	5 14.7	4 12.9	2 10.0	2 29.0	4 9.3	1 3.4	3 12.0	6 18.0	34 13.9
41 - 50	7 20.6	11 35.5	6 30.0	6 16.1	11 25.6	11 37.9	5 20.0	11 34.4	67 27.3
51 - 60	7 20.6	9 29.0	6 30.0	6 35.5	23 53.5	8 27.6	11 44.0	12 37.5	87 35.5
61 - 70	9 26.5	5 16.1	6 30.0	6 3.2	3 7.0	6 20.7	5 20.0	3 9.4	38 15.5
71 - 80	1 2.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 2.3	3 10.3	1 4.0	0 0.0	6 2.4
81 - 90	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
合 計	34	31	20	31	43	29	25	32	245
割 合	100	100	100	100	100	100	100	100	100